

横浜国際高校
専門学科
設置計画

平成28年10月

神奈川県教育委員会

1 対象校・位置・実施年度

- (1) 対象校 横浜国際高等学校
(2) 位置 横浜国際高等学校敷地 (横浜市南区六ツ川 1 - 7 3 1)
(3) 実施年度 平成 2 9 年度 国際科に改編
平成 3 1 年度 同科国際バカロレアコース開設予定

2 設置の目的

これまでの外国語によるコミュニケーション能力と情報活用能力の育成にかかる教育を継承・発展させ、国際関係にかかる教育を拠点となる学校に集約することにより、国際教育の深化と充実をめざすとともに、多様な価値観を受容できる力を育む教育を推進するための実践的な研究を行い、その成果を普及する国際科に学科を改編する。

国際バカロレア認定校となることにより、国際バカロレア資格の取得可能な国際的教育プログラムを展開する国際バカロレアコースを設置し、自分の力で考え、発信する力、さらには自国の文化への理解を深め、アイデンティティを確立する教育を展開する。

国際バカロレア資格取得により海外の大学やスーパーグローバル大学を中心とした国内の大学への円滑な進学を支援し、高大連携の視点に立ち生涯にわたって学び続けるグローバル人材育成をめざす教育を推進する学校づくりを行う。

国際バカロレアコースの教育理念を学校全体で共有し教育活動を展開する。

3 基本的コンセプト

単位制による全日制専門学科の県立高校として教育を展開する。

国際化の進展に対応した先進的で質の高い教育活動の実践

国際科として、国際化の進展に対応し、国際社会で広く活躍するために必要なコミュニケーション能力の育成、あるいは多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より平和な世界の構築に貢献する、探究心・知識・思いやりを持った人材を育成する先進的で質の高い教育活動を実践する。

特色ある学校行事、教育活動の展開及び海外大学を含む進路支援の充実
国内外の大学や外部機関との連携を一層推進しながら、海外留学生や海外姉妹校との交流等を通じて、豊かで特色ある学校行事やチャレンジに満ちた教育活動等を積極的に展開するとともに、海外大学への進学をはじめ、多様な進路希望に対応する充実した進路支援を展開する。

グローバル・リーダー育成に向けた教育活動の展開

スーパーグローバルハイスクール（SGH）として研究開発した「総合的な学習の時間」を中心に、高校卒業後の進路選択やキャリアにつながる課題研究を行う教育活動を展開し、グローバル・リーダーの育成をさらに推進する。

グローバル教育の拠点としての教育活動

これまでの外国語によるコミュニケーション能力と情報活用能力の育成に取り組んできた教育と国際バカロレアコースでの成果を県内の高校に積極的に発信・普及し、県立高校全体のグローバル教育の核となる拠点校をめざす。

4 設置形態

- | | |
|----------|--|
| (1) 課程 | 単位制による全日制の課程 |
| (2) 学科 | 専門学科（国際科） |
| (3) 学校規模 | 全日制の課程
国際科
480名(各年次160名 4学級規模程度)
国際科国際バカロレアコース(平成31年度より)
75名(各年次25名程度)
学級規模は予定であり、入学定員の発表時に確定 |
| (4) 修業年限 | 3年 在学年限は原則として6年 |
| (5) 学期 | 2学期制 |
| (6) 履修形態 | 必履修科目及び選択科目の履修 |
| (7) 授業展開 | 週に50分6限を2日、7限を3日を基本とし、必要に応じて弾力的な授業時間を設定 |

<日課表> (予定)

		週3日	週2日
1	校時	8:50 ~ 9:40	8:50 ~ 9:40
2	校時	9:50 ~ 10:40	9:50 ~ 10:40
3	校時	10:50 ~ 11:40	10:50 ~ 11:40
4	校時	11:50 ~ 12:40	11:50 ~ 12:40
昼	休み	12:40 ~ 13:25	12:40 ~ 13:25
5	校時	13:25 ~ 14:15	13:25 ~ 14:15
6	校時	14:25 ~ 15:15	14:25 ~ 15:15
7	校時	15:25 ~ 16:15	

5 入学者選抜

- (1) 募集の区分 一般募集(中学校卒業見込み者及び中学校既卒業者)
特別募集(海外帰国生徒)
- (2) 選抜の区分 共通選抜
- (3) 選考の方法 事前に公表した「公立高等学校入学者選抜選考基準」に基づいて、選考する。
国際バカロレアコースの入学者選抜については検討中

6 教育課程

- (1) 基本的方針
高等学校在籍3年以上、必履修科目を履修し、高等学校学習指導要領に基づき、学校において定めた単位を修得することで卒業とする。

専門教育に関する教科・科目の履修については、25単位を下らないこととする。
- (2) 教育の展開
入学時の学力検査や生徒学力調査に基づき、生徒の個性や能力を伸ばす授業等の学習活動を工夫した教育を展開する。

学校全体として、国際教育の深化と充実を図るとともに、県立高校生学習活動コンソーシアムを活用した教育を展開する。

(3) 編成の方針

国際科として、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、グローバル・リーダーの育成をめざして、進路に対応した教科・科目により教育課程を編成する。

生徒の学習や進路ニーズ等に応じた教育課程を編成するとともに、外国語コミュニケーションや国際理解等について深く学び探究する系統性のある科目の配置や教育活動の工夫を教育課程上に明確にする。

「国際コミュニケーション系」、「国際文化系」、「国際関係系」の3つの系にカリキュラムを精選、かつ充実させる。

(4) 教育課程表 (予定) 国際バカロレアコースは別の教育課程を編成する。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33						
国際科	1年次	国語総合			現代社会		数学			数学A		物理基礎		化学基礎		体育		保健		音楽 /美術 /書道		ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 ハングル アラビア語		情報の科学		総合英語			コミュニケーションスキルズ		総合的な学習の時間		LHR							
	2年次	現代文B		生物基礎		体育		保健		家庭基礎		英語理解			異文化理解		ライティングスキルズ		*選択科目																		総合的な学習の時間		LHR	
	3年次	現代文B		体育		英語理解研究			インターナショナルコミュニケーション		**選択科目 (2年次で履修した科目以外)																												総合的な学習の時間	

全体	2年次または3年次の選択科目として、「世界史A」または「世界史B」、「日本史A」または「日本史B」を必ず履修する。「地理A」または「地理B」を履修した者は、「日本史A」または「日本史B」を必ず履修する。専門教育に関する教科・科目の履修については、25単位を下らないこととする。
* 選択科目	【世界史A、世界史B、日本史A、日本史B以外】 古典B、地理A、地理B、倫理、政治・経済、数学、数学B、物理、化学、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ハングル、アラビア語 【専門科目】 時事英語、コミュニケーションスキルズ、CALL、プロフェッショナルイングリッシュ、日本紹介、イングリッシュスルームービーズ、英語語法理解、スピーチアンドディベート、国際理解、国際食文化
* * * 選択科目	【世界史A、世界史B、日本史A、日本史B以外】 古典B、現代文研究、古文研究、漢文研究、小論文、地理A、地理B、世界史研究、日本史研究、倫理、政治・経済、現代社会研究、政治・経済研究、数学、数学B、数学研究、物理、化学、生物、物理研究、化学研究、生物研究、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ハングル、アラビア語 【専門科目】 CALL、プロフェッショナルイングリッシュ、日本紹介、イングリッシュスルームービーズ、リーディング研究、英語語法理解、スピーチアンドディベート、英米文学講読、小学校英語活動、国際理解、時事問題研究、言語文化研究、国際食文化

(囲いの数字は単位数)

教育課程表は予定であり、変更することがある。

3つの系の併置の特色をいかした必履修科目について

国際科としての特色をいかし、高い英語力を育成するとともに国際的視野を広げるための教育課程を編成するために、3つの系に共通する必履修科目を設置する。

<主な科目>

総合英語

... 1年次の必履修科目として「コミュニケーション英語」の代わりに専門教科「英語」の「総合英語」を設置し、高度で実践的な英語の運用能力の育成を図る。さらに学校必履修科目として2年次の「英語理解」、3年次の「英語理解研究」を履修することにより、豊かなコミュニケーション能力の向上を図る。

英語以外の外国語に係る科目

... 1年次においてドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ハングル、アラビア語の中から必ず1科目履修した後、2・3年次に継続履修することが可能である。言語のみならずさまざまな視点から、文化の特性や多様性を理解する。

インターナショナルコミュニケーション

... 専門教科「国際」の中で3年次の学校必履修科目の「インターナショナルコミュニケーション」では、英語によるディベートやエッセイ集の作成をすることにより、国際社会に参画する態度や主体的に課題を解決する能力を育成する。

(5) 学習指導の工夫

知識の質や量の改善とともに、学びの質や深まりを重視し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習や、そのための指導の方法等を充実させる取組みを図る。

自らの学習目的や進路希望に基づいて、主体的に学習を進めることができるよう、また、基本的な内容から発展的な内容を含め、生徒一人ひとりの個性と能力の伸長を図ることができるよう指導する。

専門科目の展開では、実技・実習などの学習活動を充実させるとともに、各自の学習ニーズに応じたきめ細かい指導が実施できるよう配慮する。

(6) 生徒指導等の工夫

特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等）や部活動等の集団活動により、さまざまな個性を相互に尊重し、より良い人間関係の構築と自立をめざす指導を行う。

生徒の状況を的確に把握し、さまざまな課題を抱える生徒に対して、一人ひとりに応じた適切な配慮や支援を、学校全体で行う体制を整える。

学科の特性をいかした学校行事、生徒会活動、部活動や地域連携活動を活性化させ、学校全体としての特色ある学校づくりを推進する。

生徒理解を深めることを基本に、生徒相互の良好な人間関係を育むとともに、生徒と教師との信頼関係を大切にした生徒指導に取り組む。

(7) 進路指導の工夫

生徒が自己のあり方、生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じてキャリア教育を推進するとともに、生徒一人ひとりの進路目標の実現を図るため、計画的、組織的な進路指導を行う。

教育課程や学習指導と一体化したきめ細かい指導や進路希望に対応したガイダンスの機能の充実を図るなど支援体制を確立する。

(8) 学校経営

学校教育計画に基づき、学校評価や第三者評価の報告をいかすなどして、一層充実した自律的・組織的な学校経営に取り組む。

7 施設・設備の整備

国際科及び国際バカロレアコースの教育の展開に必要な施設・設備を整備する。

8 その他

国際科及び国際バカロレアコースを有する教育活動の展開に必要な職員配置を行う。

県立高校全体のグローバル教育の核となる拠点校としての教育展開をするために必要な職員配置を行う。

県立高校全体のグローバル教育の核となる拠点校としての教育活動を充実させる。



神奈川県

教育委員会教育局指導部高校教育課
高校教育企画室高校教育企画グループ 電話(045)210-8254(直通)
横浜市中区日本大通 33 〒231-8509 FAX(045)210-8922
電話(045)210-1111(代表) 内線 8255・8256